

もり エコ森林通信 vol.6

～秋の生きものたちと夏の仕掛けの結果～



エコ森林通信 vol.6 では、vol.5 に続く生きものの紹介と夏の仕掛けの結果をご報告します。

黄色の絨毯のその先でエコ森林隊を待っていたのは、不思議な穴でした。

のぞいてみると入り口の大きさは 20cm ほどで、深さは 30cm くらいありそうです。穴に気を取られてしまいました。入り口横には分解されたハチの巣もありました。帰社後にチームの昆虫マニアKさんに写真を確認してもらおうと、地面に巣を作るクロスズメバチの仲間ではないかとのことでした。地面を掘り返したのは誰の仕業か気になりましたが、深く考えると怖くなるのでやめておきます。(注：エコ森林にはヒグマもいます。)

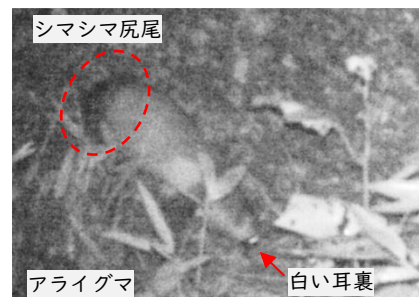


ようやくエコ森林にたどり着きました。夏に仕掛けたものが気になります。それは、林道脇の木に仕掛けた自動撮影カメラです。夜のエコ森林では何が撮影されているのでしょうか？

ワクワクしながらカメラを持ち帰り、撮影データを確認します。そこにはたくさんのエゾシカとタヌキがいました。エゾシカは、立派な角の雄鹿の群れやかわいい子鹿を連れた雌鹿の群れなどが写っていました。撮影されたのは主に夜間ですが、日中も林道を歩く姿が確認されました。そして、夜間の巡回ルートが決まっているらしく、いつも同じ位置に写っているタヌキ君。



さらに、1度だけですがアライグマが撮影されました。少し見づらくはありますが、シマシマの尻尾と耳の裏側の白が特徴です。アライグマは「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来種に指定されています。今ではほぼ全道で生息が確認されており、深刻な農業被害をもたらしています。近年では猛禽類の巣への侵入も確認されており、繁殖阻害となっている可能性もあります。アライグマに限らず、外来種問題は非常に深刻で、重要な問題です。今後は、エコ森林での外来種の生息・生育状況についても把握していきたいと考えています。



外来種（ウチダザリガニ、セイヨウオオマルハナバチ、オオハンゴンソウ等々）でお困りのことがありましたら、エコ森林隊にご相談ください。対象に適した対策をご提案します！

- “北海道におけるアライグマの現状”. 北海道.<<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/araiguma/genjyo.pdf>>
- “日本の外来種対策”. 環境省.<<https://www.env.go.jp/nature/intro/llaw/outline.html>>